

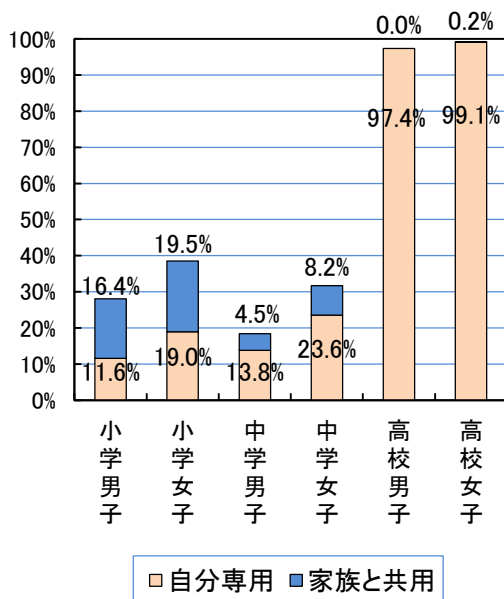
平成25年度「携帯電話とインターネットについてのアンケート」結果について

教学指導課心の支援室

○調査目的	児童生徒の携帯電話やインターネットの利用実態を把握し、指導の参考に資するため		
○調査対象	小学校8校（4～6年 714名）	中学校10校（925名）	高等学校12校（1,272名）
○調査時期	平成25年7月		計30校（2,911名）

1 携帯電話を所持している児童生徒の割合

		小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
平成25年度 の所持率(%)	自分専用携帯を所有	17.2	10.1	18.1	14.5	19.8	21.2	97.5	99.1	98.3
	家族と共用	20.5	15.1	18.1	5.8	7.5	5.5	0.2	0.0	0.0
	計	37.7	25.2	36.2	20.3	27.3	26.7	97.7	99.1	98.3
平成24年度 の所持率(%)	自分専用携帯を所有	11.3	15.6	18.4	15.6	17.0	23.8	98.7	98.6	98.6
	家族と共用	12.9	7.4	7.0	9.2	6.9	5.9	0.0	0.7	0.7
	計	24.2	23.0	25.4	24.8	23.9	29.7	98.7	99.3	99.3
平成22年度の所持率(%) <small>(「自分専用」と「家族と共用」の計)</small>		24.1	14.0	13.6	19.5	24.0	25.6	97.6	98.5	98.7



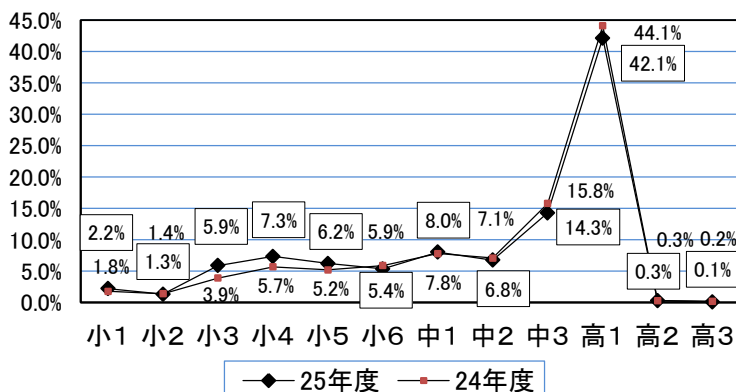
(参考)

(単位: %)

平成25年度全国学力・ 学習状況調査より (カッコは24年度)	小6		中3	
	長野県	29.6 (22.7)	49.9 (36.7)	
	全国	44.4 (36.4)	69.1 (63.5)	

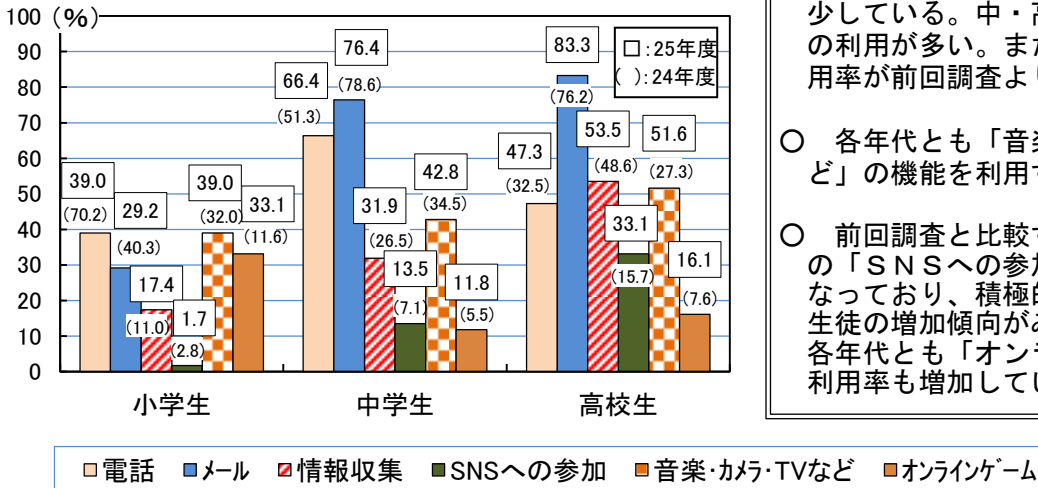
- 「自分専用」の携帯電話を所持している割合は、中学3年生で全体の2割を超え、中学3年生から高校1年生で急増する。
- 高校生の98%以上が「自分専用」の携帯電話を所持している。
- 各年代ともに女子のほうが所持率が高い。
- 前回調査（平成24年9月）と比較すると、小学生が「家族と共用」の携帯電話を所持している割合が大きく増加しており、携帯電話利用の低年齢化がすすんでいる。

2 携帯電話を購入あるいは所持した時期



- 前回調査と比較すると、携帯電話を購入あるいは所持した時期に大きな変化は見られないが、小学3・4・5年生で購入あるいは所持する割合が1～2ポイント増加している。このことから児童生徒の携帯電話利用の低年齢化が進んでいることがうかがえる。

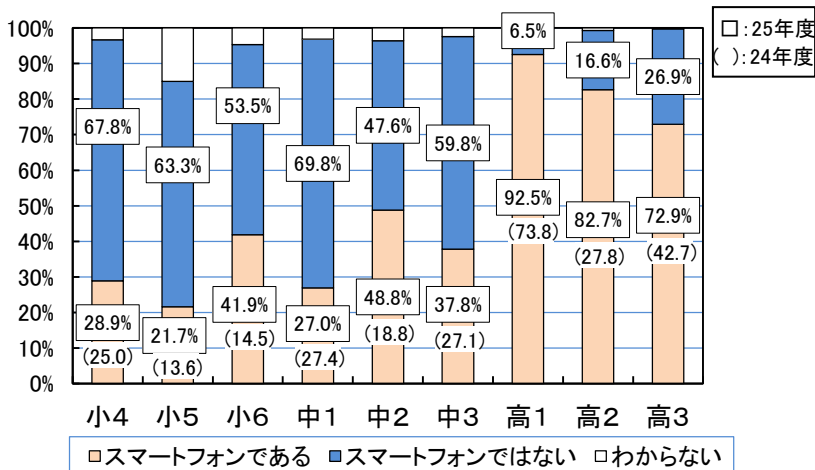
3 よく使用する機能（複数回答）



- 小学生は「電話」の利用率が高いが、前回調査と比較すると大きく減少している。中・高生は「メール」の利用が多い。また、「電話」の利用率が前回調査より増加している。
- 各年代とも「音楽・カメラ・TVなど」の機能を利用する割合が高い。
- 前回調査と比較すると、中・高生の「SNSへの参加」の割合が高くなっており、積極的に情報発信する生徒の増加傾向がみられる。また、各年代とも「オンラインゲーム」の利用率も増加している。

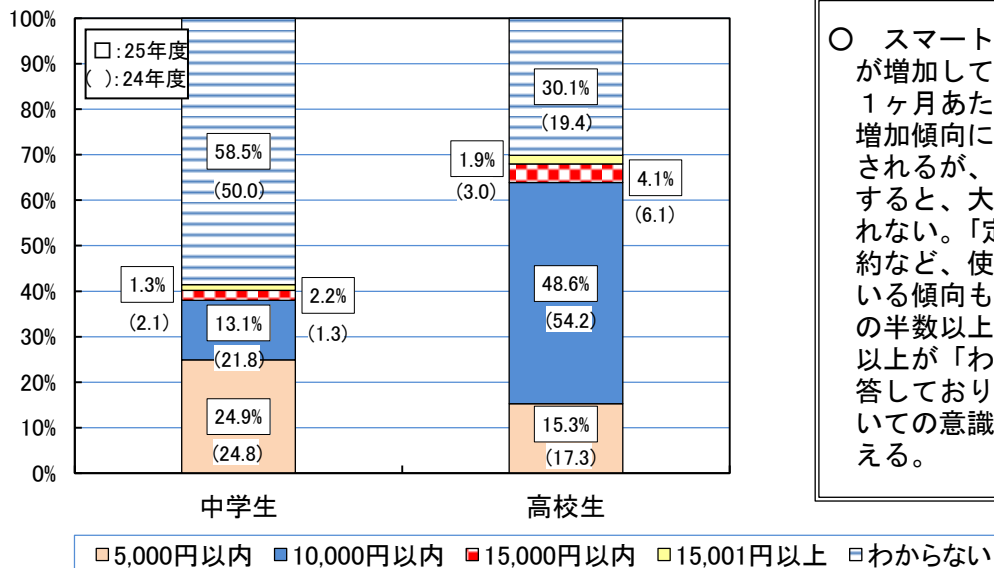
4 スマートフォンを所持している児童生徒の割合

前頁の1で回答した「自分専用」及び「家族と共用」の端末が、スマートフォンである割合。



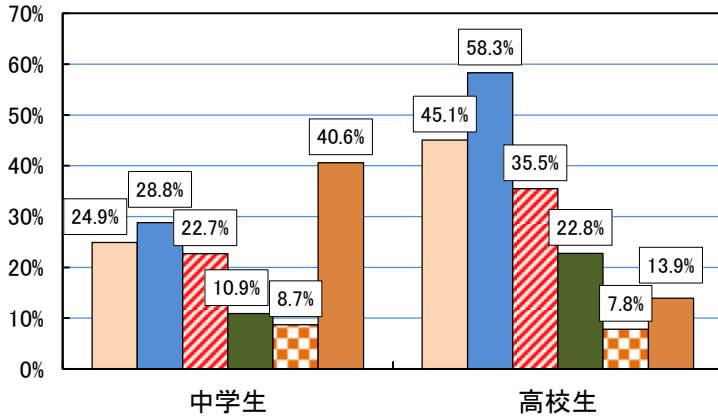
- 前回調査と比較して、高校生のスマートフォン所持率が大きく増加している。また、高校1年生の所持率が9割以上であることから、新たに携帯電話を購入する場合、あるいは携帯電話を買い替える場合の多くがスマートフォンを購入していることがうかがえる。

5 1ヶ月あたりの使用料金



- スマートフォンの所持率が増加していることから、1ヶ月あたりの使用料金は増加傾向にあることが予想されるが、前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。「定額制」の料金契約など、使用料金を抑えている傾向もあるが、中学生の半数以上、高校生の3割以上が「わからない」と回答しており、使用料金についての意識の弱さがうかがえる。

6 携帯電話のセキュリティ対策



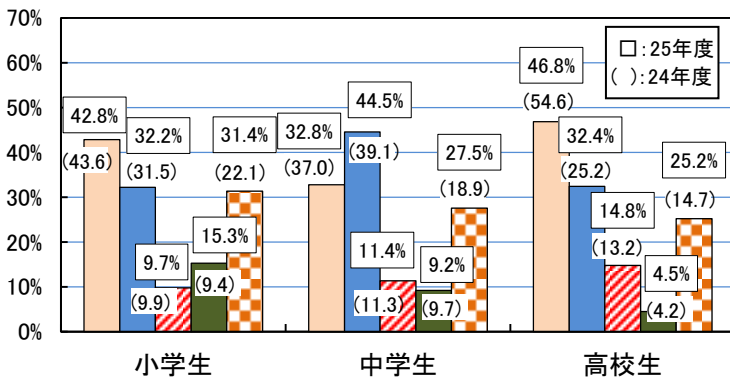
■ ウィルス対策ソフト
 ■ 画面ロック機能
 ■ アプリの安全確認
 ■ OSやアプリの更新
 ■ 特になし
 ■ わからない

○ スマートフォン利用が増加していることから、セキュリティ対策について今回初調査した。

○ 中学生の4割以上が「わからない」と回答している。

○ 「ウィルス対策ソフト」を利用している割合は、高校生でも5割に満たない。

7 携帯電話使用に関する保護者との約束事（複数回答）



■ 特に約束事はない
 ■ 危険なサイトにつながらない
 ■ 金額の上限
 ■ 使用時間や場所

○ 保護者との約束事がない児童生徒が多い。高校生では、前回調査より減少はしているが、半数近い生徒が保護者との約束事がない。

○ 前回調査と比較すると、各年代とも「危険なサイトにつながらない」「マナーを守る」の割合が高くなっている。

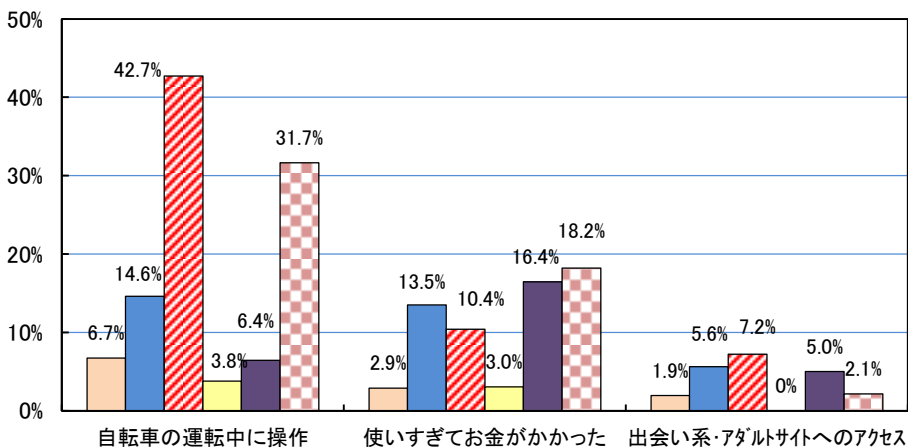
(参考)

携帯電話使用に関する家庭のルールがない

	小	中	高
児童生徒	47.8%	37.4%	53.1%
保護者	39.0%	25.3%	37.8%

内閣府『平成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査』(平成25年1月)より

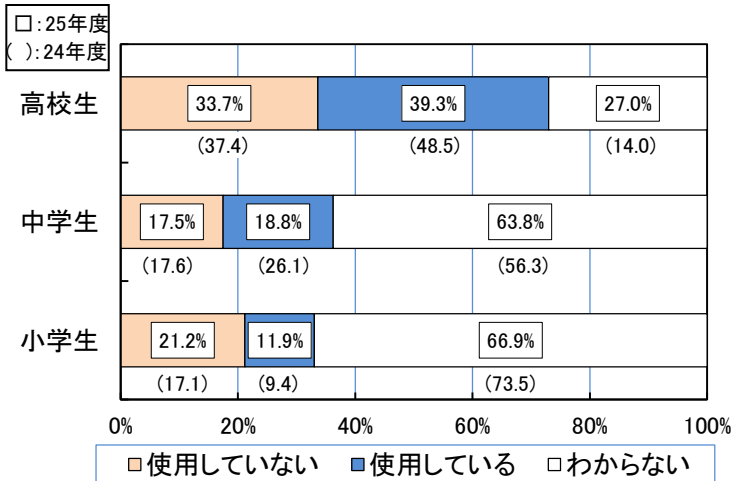
8 携帯電話で経験したことがある行為（複数回答）



■ 小学男子
 ■ 中学男子
 ■ 高校男子
 ■ 小学女子
 ■ 中学女子
 ■ 高校女子

○ 自転車の運転中に携帯電話を使用したことがある児童生徒の割合は、年代が上がるにつれて急増しており、高校生男子では4割以上が経験している。

9 フィルタリング機能の使用

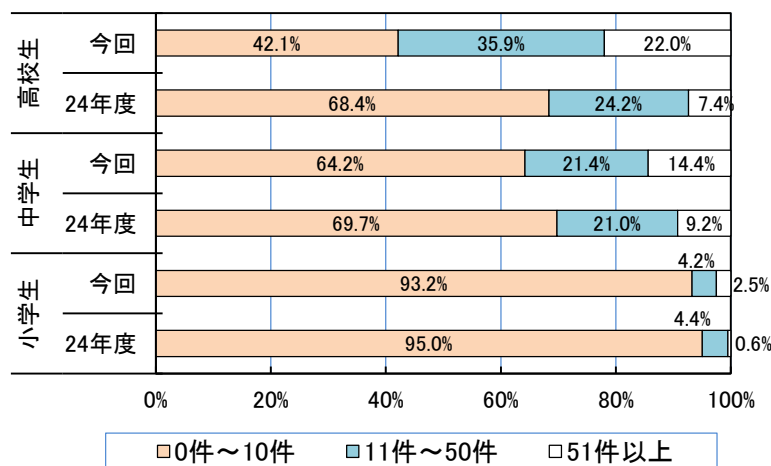


○ 前回調査と比較すると、中・高生のフィルタリング機能の使用率が減少している。また、「わからない」と回答している割合が増加していることから、スマートフォンのフィルタリング機能に対する意識の弱さがかがえる。

(参考) 警察庁『児童が使用する携帯電話に係る利用環境実態調査』(平成23年2月 調査対象:保護者)より
フィルタリング利用率(インターネット利用不可機種・設定含む)

	小学生(4~6年)	中学生	高校生
長野県	77.2%	69.8%	58.8%
全国	75.9%	67.5%	51.9%

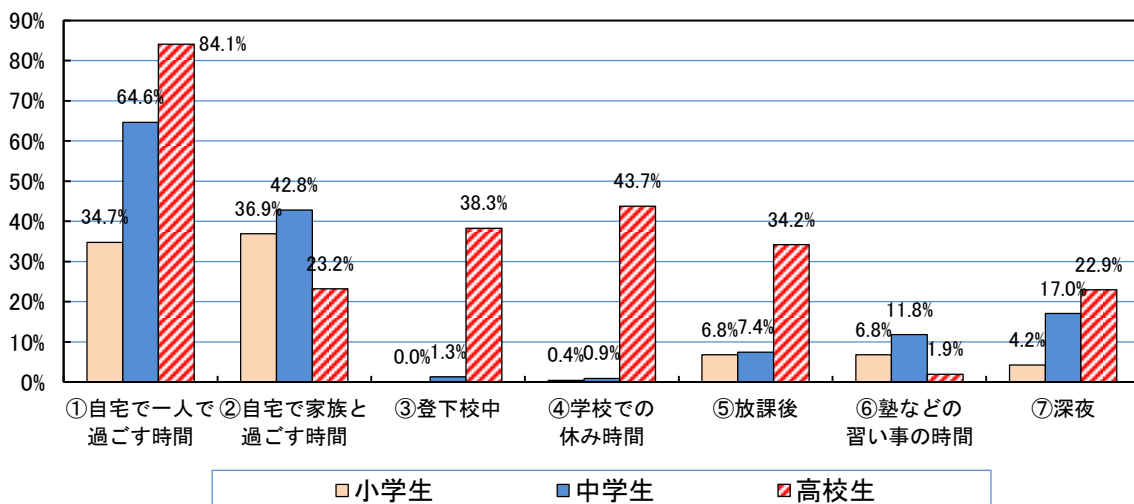
10 1日に送信する携帯メール件数の平均



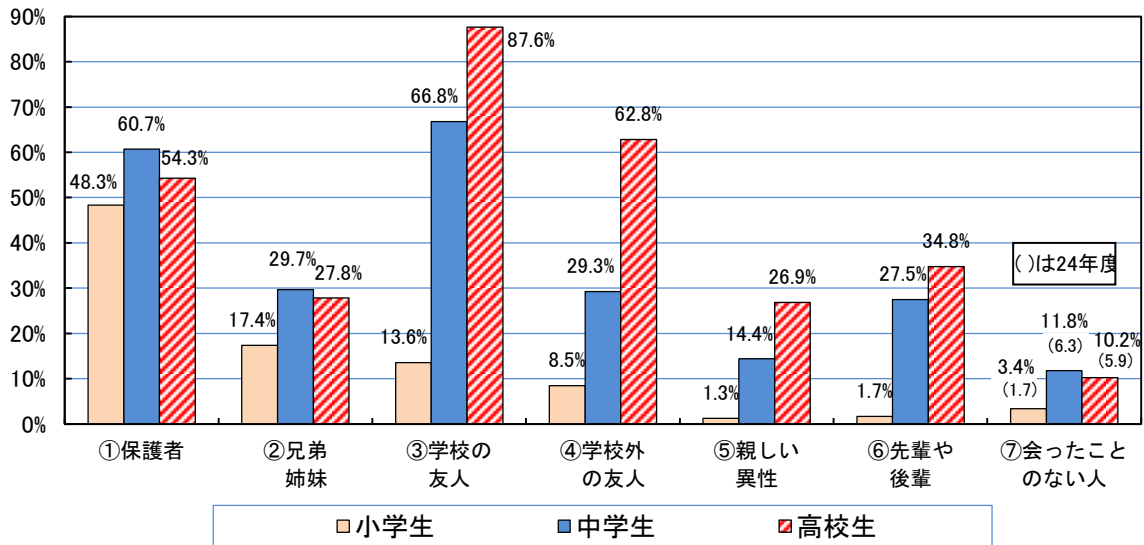
○ 1日に送信するメール件数は、中学生になると急増する。

○ 前回調査と比較すると、各年代とも1日に送信するメール件数の平均が「51件以上」の児童生徒の割合が増加している。これは、無料通話アプリのメール機能の利用が増加したためと思われる。

11 携帯メールを利用する時間帯(複数回答)

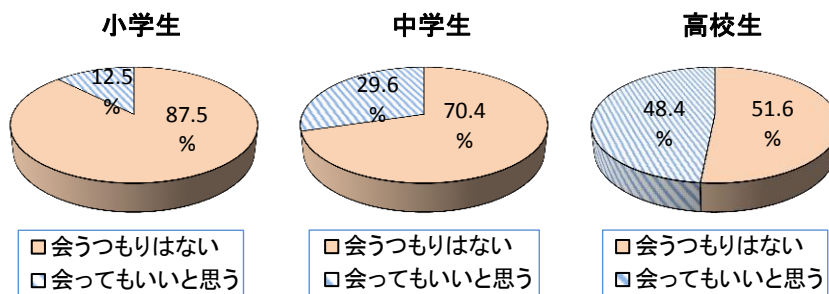


12 携帯メールをする相手（複数回答）



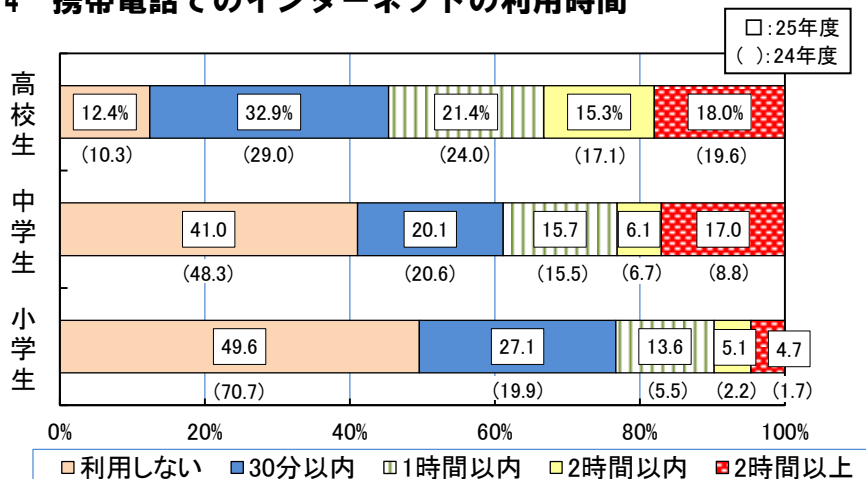
13 メール相手と実際に会ってもいいと思っている児童生徒

上記12で⑦と回答したうち、実際に会ってもいいと思っている児童生徒の割合。



○ 前回調査と比較すると「実際に会ったことのない人」とメールのやり取りをしている児童生徒の割合が増加しており、メールを利用している中・高生の約1割が実際に会ったことのない人とメールのやり取りをしている。そのうち、中学生の約3割、高校生約5割がその相手と「会ってもいいと思う」と回答している。

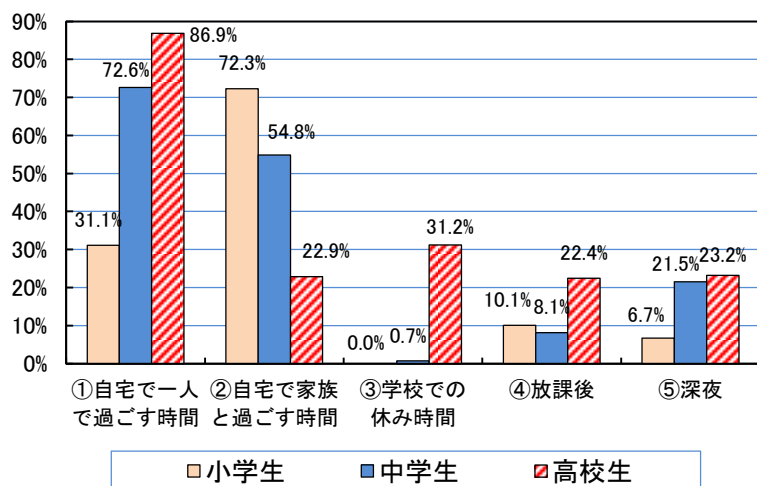
14 携帯電話でのインターネットの利用時間



○ 前回調査と比較すると、携帯電話でインターネットを利用する小学生が増加している。

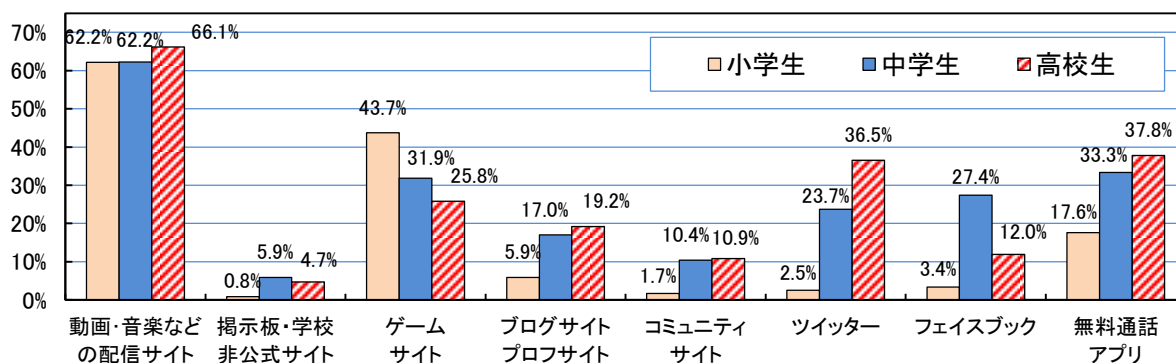
○ 2時間以上利用している中学生の割合が、前回調査と比較して、約8ポイント増加している。

15 携帯電話でインターネットを利用する主な時間帯（複数回答）



- 年代が上がるにつれて、「自宅で家族と過ごす時間」にインターネットを利用する割合は減少し、「自宅で一人で過ごす時間」に利用する割合が増加している。
- 携帯電話でインターネットを利用している中・高生の2割以上が、「深夜」に利用している。

16 アクセスするサイト（複数回答）

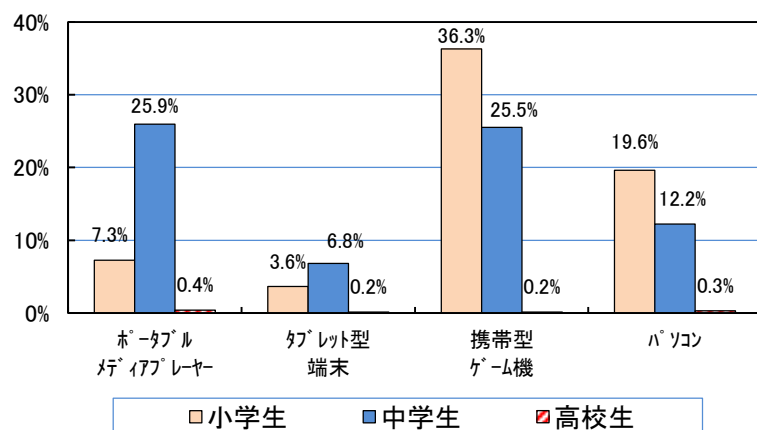


	小学生		中学生		高校生	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
動画・音楽などの配信サイト	69.6%	55.6%	58.3%	64.4%	64.3%	67.8%
掲示板・学校非公式サイト	0.0%	1.6%	2.1%	8.0%	6.8%	2.8%
ゲームサイト	51.8%	36.5%	50.0%	21.8%	38.1%	14.4%
ブログ・プロフサイト	3.6%	7.9%	2.1%	25.3%	9.3%	28.3%
コミュニティサイト	1.8%	1.6%	8.3%	11.5%	8.5%	13.0%
ツイッター	3.6%	1.6%	20.8%	25.3%	28.8%	43.6%
フェイスブック	3.6%	3.2%	27.1%	27.6%	9.9%	13.9%
無料通話アプリ	8.9%	25.4%	22.9%	39.1%	32.1%	43.1%

- 各年代とも、「動画・音楽などの配信サイト」へのアクセスが多い。また、「無料通話アプリ」の利用も多い。
- 携帯電話でインターネットを利用している小・中学生男子の半数以上が「ゲームサイト」にアクセスしている。また、中・高生女子のSNS利用率が高い。

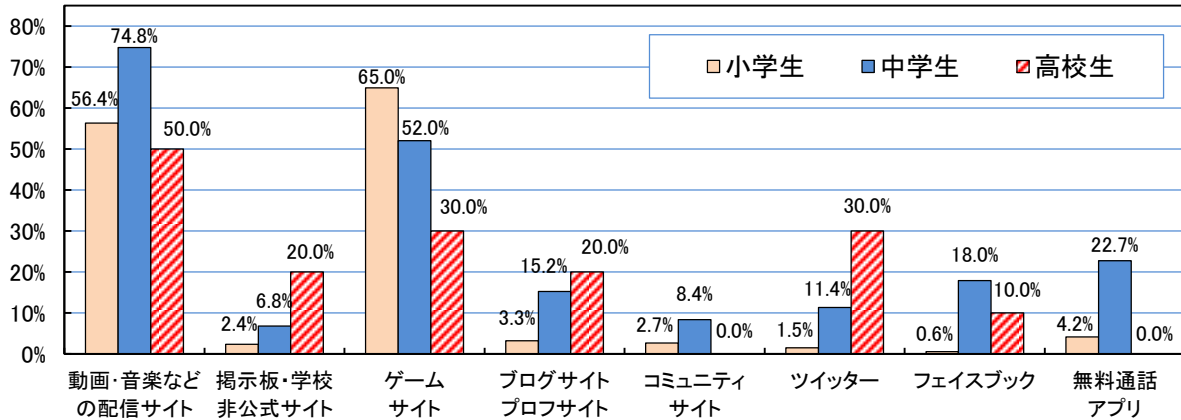
(SNS:ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

17 携帯電話は所持していないがネット利用に使っている自分専用の端末機器（複数回答）

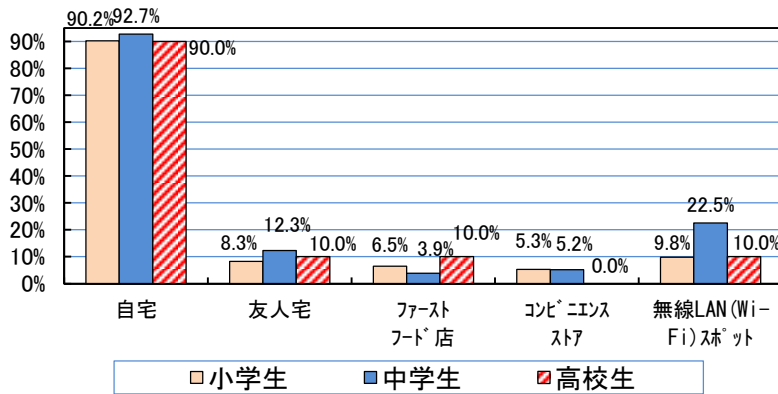


- 携帯電話を所持していない中学生の4分の1以上が、「ポータブルメディアプレーヤー」からインターネットに接続している。
- 携帯電話を所持していない小学生の3分の1以上、中学生の4分の1以上が「携帯型ゲーム機」からインターネットを利用している。

18 携帯電話以外の自分専用の端末機器でアクセスするサイト（複数回答）

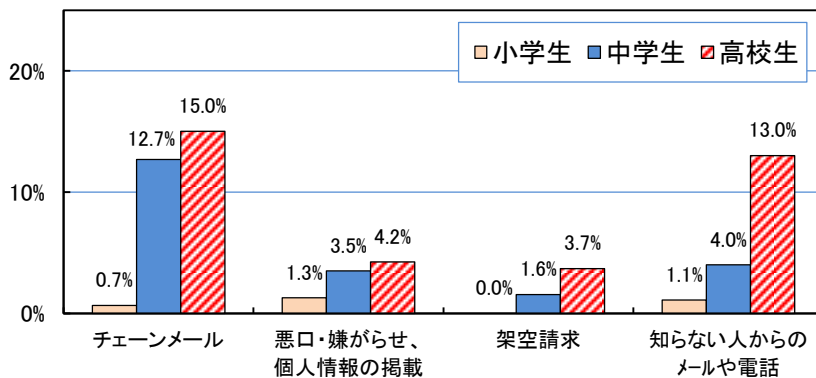


19 携帯電話以外の自分専用の端末機器でインターネットにアクセスする場所（複数回答）



- 携帯電話以外の端末機器でインターネットを利用している小・中学生の多くが、「動画・音楽などの配信サイト」や「ゲームサイト」にアクセスしている。また、中学生の2割前後が、「フェイスブック」や「無料通話アプリ」を利用している。
- 中学生の2割以上が、自宅外の「無線LAN (Wi-Fi) スポット」からインターネットにアクセスしている。

20 インターネットを利用して嫌な思いをしたこと（複数回答）



- インターネットを利用してインターネットを利用している高校生の13%が、「知らない人からメールや電話」がきて、嫌な思いをしたと回答している。無料通話アプリやSNSの特性を理解しないまま利用していることがうかがえる。

21 インターネットで知り合った人と実際に会ったことがある児童生徒

		小学生	中学生	高校生
インターネット利用者に占める割合		1.3%	1.6%	5.9%
理由	ひまだったから	16.7%	11.1%	41.5%
	おもしろそうだったから	33.3%	11.1%	21.5%
	話し相手がほしかったから		22.2%	1.5%
	相手のことをもっと知りたかったから	50.0%	55.6%	35.4%

- インターネットを利用してインターネットを利用している高校生の約6%が、SNSのサイト内や無料通話アプリなどで知り合った相手と実際に会っている。また、小・中学生でも、インターネットで知り合った人と実際に会ったことがある児童生徒がいる。

22 アンケート結果の総括

- 携帯電話の所持率や購入時期については、前回調査（平成24年9月）と比較すると、「家族と共用」の携帯電話も含め、小学生段階で所持や購入をしている割合が増加しており、携帯電話利用の低年齢化が進んでいる。
- スマートフォンの所持については、高校1年生の9割以上、高校2年生の8割以上が所持している等、高校生を中心に急速に拡大している。
- 携帯電話の使用料金やセキュリティについては、中学生の半数以上が使用料金を把握していない。また、ウィルス対策ソフトを利用している高校生は5割に満たず、自分が使用している携帯電話の料金やセキュリティ対策に対する意識が弱い。
- 携帯電話使用に関する保護者との約束事については、「特に約束事はない」と回答した児童生徒の割合が高い状況にある。
- 自転車運転中の携帯電話の操作については、4割近い高校生が経験している。
- フィルタリング機能の使用については、依然として低い水準である。また、使用の有無が不明な児童生徒も多く、フィルタリング機能に対する意識が弱い。
- メール機能の利用については、無料通話アプリの利用増加により、1日に携帯電話から送信するメールの平均件数が各年代ともに増加している。深夜に利用している児童生徒や、会ったことのない相手とメールをやり取りしている、また、その相手と会ってもいいと思っている児童生徒もいる。
- 携帯電話でのインターネット利用については、小学生の利用、中学生の長時間利用が増加している。また、中・高生の2割以上が深夜に利用している。
- 携帯電話以外の機器でのインターネット利用については、自宅内外の無線LANを利用して、「携帯型ゲーム機」や「ポータブルメディアプレーヤー」から接続する小・中学生が多い。
- インターネットでアクセスするサイトについては、動画や音楽の配信サイト、ゲームサイトの利用が多い。中・高生では、ツイッターなどのSNSや無料通話アプリの利用者も多い。
- インターネットで知り合った相手と実際に会ったことのある児童生徒がいるなど、インターネット利用に関する危険性について理解していない児童生徒がいる。

23 今後の対応

- **メディアリテラシー及び情報モラル教育の一層の充実**
学校におけるメディアリテラシー及び情報モラル教育の推進に役立つよう、学級等ですぐに使える指導資料を作成・配布する。
- **教職員の情報モラル指導力の向上**
教職員が、スマートフォンや無料通話アプリ等新たな機器や機能の特性や、情報モラルについて理解を深め、児童生徒への指導に役立つよう、研修を実施するとともに、あらゆる機会を通して、引き続き、情報を提供する。
- **保護者と学校の協力体制の確立**
インターネットや携帯電話等の適切な利用、家庭におけるルールづくり、フィルタリング機能の活用等について、保護者への啓発及び情報提供を継続し、家庭と学校が連携して児童生徒の情報安全を守る体制づくりを推進する。
- **メディアを介したいじめやトラブルへの対応**
いわゆる“ネットいじめ”をはじめ、インターネットや携帯電話等に係る問題に対し、ケーススタディを取り入れた校内研修の実施等により、対応力や指導力の一層の向上を図る。